

## 「居場所を兼ねた学習支援事業」について

### 1 目 的

中学生に学習の場所と機会を提供し、コミュニケーション能力や社会性を養うとともに生活習慣を身につけ、子どもの生活を安定させることで学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。利用料・教材費は無料。

### 2 実施概要

平成 27 年 8 月 27 日オープン

物件を借上げ、内装工事の上利用。居場所スペースと学習スペースをアコーディオンカーテンで区切り使用している。

開所時間：平日 15：00～20：00 土曜日 13：00～20：00 日曜祝日 10：00～20：00  
火曜日定休 冬休み、春休み等 長期休暇中は、10：00～20：00

### 3 対象者

学習支援が必要な中学生

○学習支援が必要と判断した事例

- ・ひとり親家庭で、親が仕事のため夜間子どもだけで過ごす。
- ・兄弟姉妹が多く、家に勉強するスペースがない。
- ・ネグレクトや両親以外の親族に育てられ、家族との関係性が薄い。

※ 上記以外の事例では、中学 3 年生、就学援助や児童扶養手当を受給中の方を優先

○お断りした事例

- ・両親共働きで、今までも塾に通わせたが、本人のやる気がなく学力が伸びない。
- ・知的障がいまたは学習障がいの疑いがあり、専門的・特別な支援が必要。
- ・喫煙や暴力等の非行傾向にあり、他生徒に悪影響を与える可能性がある。

### 4 申込方法

- ① 生活保護のケースワーカーから紹介 → ケースワーカー経由で申込み
- ② スクールソーシャルワーカー（平成 27 年度は 2 校に配置）からの紹介(学校経由)
- ③ 周辺中学校(5 校)にてチラシを配付(くらしとしごとの相談センターに直接申込み)
- ④ くらしとしごとの相談センター窓口に来た相談者に紹介し、その場で直接申込み

### 5 実施内容

◎学習支援→大学生等のボランティアによるマンツーマンで学習指導

◎居 場 所→自由に利用できる居場所・自習スペースを提供

毎日 18：00～20：00 は、学習時間として学習指導ボランティアが個別指導で勉強を教える。利用登録した生徒は、最低週 1 回は、決まった曜日に学習指導に参加する。

それ以外にも、勉強をしたい生徒は自習室として利用可能。

中学 3 年生には、加えて日曜日に受験対策指導を実施。模擬試験も

居場所スペースについては、登録した生徒は、開所時間は、いつでも利用可能。

食の提供について：

- ・セカンドハーベストさんや おてらおやつクラブさんのご協力により、お菓子の用意
  - ・12月に、ライオンズクラブさんのご協力によりキッチンを整備。以後、毎週土曜日にライオンズクラブの女性会員の皆様が交代で早めの夕食（5時頃提供）をご用意いただいている。食材もご提供もいただいている。
  - ・飲み物は用意している。
- ※ 平成28年度より、お米のご寄附が定期的にあるため、可能な範囲で、平日におにぎりなど軽食をスタッフが用意している。

## 6 実施場所

平成27年度は区内北部の民間施設1ヶ所のみで実施。

平成28年度は区内東部等2ヶ所で新たに実施予定

＜参考＞平成27年度の実績（区内北部の民間施設）

- 1 登録人数：58名  
内訳 中学3年生：26名、中学2年生：19名、中学1年生：12名、小学5年生：1名  
生活保護世帯20名、就学援助受給世帯52名、ひとり親家庭42名
- 2 進学率：100%  
中学3年生の進決定路：都立高校25名（全日制18名、定時制5名、単位制2名）  
県立高校1名

## 7 成果と課題

成果：

- ・おそらく全国では唯一の、しっかりとした学習支援機能をもった居場所の運営というチャレンジであったが、登録人数も目標60名に対して58名（97%）であり、また中学3年生は全員が高校進学を果たした。
- ・生活状況が厳しく、家庭環境が複雑な子どもも多く、滞留時間も長いため、他の定期開催型学習会と比べ非常に難しい運営であったが、大きなトラブルなく運営することが出来た。
- ・ライオンズクラブさん、セカンドハーベストさん、おてらおやつくらぶさんなど外部リソースと連携し、食の提供を行なうことができた。子どもたちにも大変好評であった。
- ・子どもにとっても、安心して過ごせる場として、毎日のように利用する子がいる、高校生になっても顔を出すなど、重要な存在となっている。
- ・学校やケースワーカーさんとの連携などにより、早め早めの予防的措置が出来る。学習指導中に、「軽いいじめを受けていて休みがち」などの状況がわかれば、区の担当者経由で学校に情報を確認してもらうなど、不登校、引きこもり予防にもつながる
- ・当初は学習意欲の無かった生徒が、積極的に勉強に取り組む、高校進学意欲を見せるようになるなど、貧困の連鎖防止につながっている。

課題：

- ・家庭や学校に居場所がない子どもも多く、居場所利用者が予想よりも多く、施設が手狭である。特に土日や長期休暇時は、長時間利用も多く、スタッフ、ボランティアを入れるとこれ以上の登録は難しい。
- ・生徒からの相談等の対応が多いが、区切られたスペースがないためにゆっくりと話をすることが難しい。
- ・高校生になっても、家庭環境などは変化しづらく、中退等のリスクが高い。また学力面でも高校の勉強についていくためには、引き続きの支援が必要な生徒も多く、居場所を卒業した高校生に対しての支援を考える必要がある。（現状、時々居場所に顔を出してくれる際には、受入れて高校の話などを聞いている）。

以上

## 【資料 6】

H28 第 1 回会議

### 足立区総合教育会議 28 年度実施予定

#### 28 年度に予定している会議日程及び主な協議・調整項目

| 時期              | 主な協議・調整項目（案）                                                                                                                            |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回<br>（5 月）  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 足立区いじめ調査委員会の報告について</li><li>・ 子どもの貧困対策について<br/>（子どもの健康・生活実態調査の報告、子どもの居場所を兼ねた学習支援事業の現況）</li></ul> |
| 第 2 回<br>（9 月）  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学力調査結果報告</li><li>・ おいしい給食に関する協議</li></ul>                                                       |
| 第 3 回<br>（11 月） | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新年度に向けた教育関連事業の整理</li></ul>                                                                      |
| 第 4 回<br>（2 月）  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新年度に向けた教育課題の整理</li></ul>                                                                        |
| 通 年             | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育振興計画の進捗、成果等報告</li></ul>                                                                       |